



視線について
充分な研究とトレーニングを
かさねたおかげで”



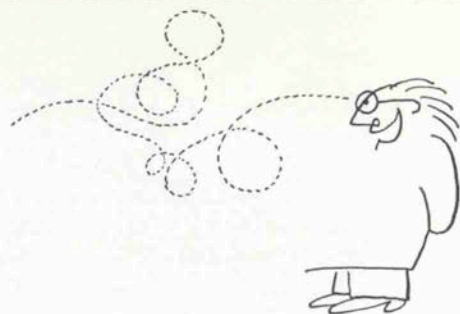
今や 自分の視線を
自由にコントロールできるまでに
いたった



私なんざ”むかしから
教授の視線を
コントロールできますがね……”

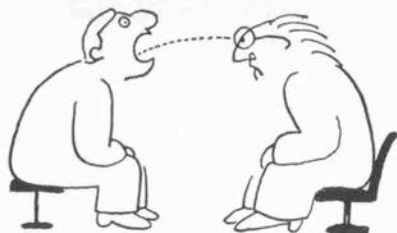


—Jesse—



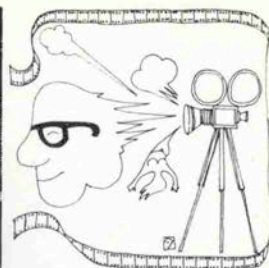
わしの自由自在な
視線をもってすれば
肩カメラなんぞ
無用じゃ

ひとつ 見てください



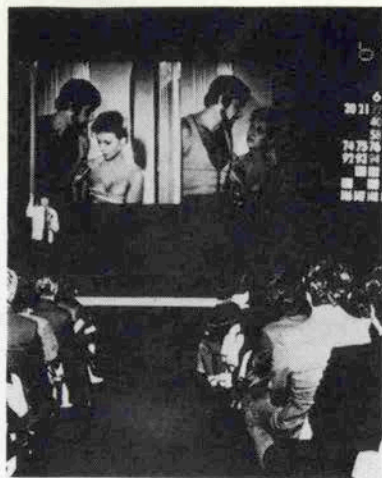
痔じゃ





●ふらつしゅ●ばつく● ナポレオンと キノオートマツトと レネ

淀川 長治
(映画評論家)



大阪ガス「ワンダーランド」の映画あそび

十一才でまだ健在と聞く。

「ゴッドファーザー」「地獄の黙示録」の Coppola 監督がガンスの「ナポレオン」に魅せられたことがわかるしこれを東京でも上映したがって来日したこともわかってきた。ナポレオンにはアルベール・デュドネ、ジョセフィンにはジナ・マネが扮し、アナベラも出演している。三つのスクリーンの使用法は中央が市民の群像、両がわが兵士の進軍と大砲といったスクリーン演出である。

四月二十五日の晩ひょっこりと東京でコッポラに逢った。フランスのアベル・ガンズ監督の「ナポレオン」(一九二七)の上映権を持っていて、ことしの一月の二十三日、二十四日、二十五日の三日間ニューヨークのラジオ・シティ・ミュージックホールでこれを上映し、そのときのこのサイレント映画の音楽伴奏にはコッポラの父のカルミネが六〇名編成のアメリカン・シムフォニー・オーケストラを指揮したことも話題を作ったが、このガンズ監督の「ナポレオン」のトリプル・エクランと呼んでいる三つのスクリーンの同時上映つまり今日のシネママの前身手法が大変な評判をとった。

ガンズ監督は一九三四年にこのフィルムをトーキーにしようとしてマルティ・スピーカーつまり現在の立体音響をこころみて当時の観客を驚かせた。ガンズは芸術家であつたがまたすぐれた科学者だともいえる。ことし九

ポートピア'81で大阪ガスワンダーランドの(キノオートマツト)というのを見物した。チェコが発明した面白い映画遊び。チェコと日本の共作となつて日本人も出演している。四十二分のその映画は可愛い面白いストーリーを持っているのだが途中でそのシーンをストップさせる。あらかじめ解説があつて客席の前には赤ボタンと青ボタンがあつて、そのストップしたシーンは中央に線がはいり二態に別れ、たとえば右は(車は右に曲つてゆく)そして左は(車はまっすぐ正面に向つて走る)というその二場面……さてあなたはどちらを選びますか……右は赤ボタン、左は青、さあボタンを押して下さい……瞬間、画面の外の両わきの四角いスクリーンに観客のボタンの赤と青の押したボタンの数が現われその合計がその場で一瞬に計算され、赤の数が多くなると……場面はサッと赤ボタン指定のシーンになり青ボタン指定のシーンは画面外へ押し出されてしまふ。これで観客はそのたびに二つのストーリー進行のどちらか一つを選ぶこと

になる。どういう仕掛けかと映写室を覗くと二台の映写機が用意され、(青)が多いと自動的に青のフィルムが映写、(赤)も同じ、という面白い映写の工夫がされていた。ところで赤と青が同点だったとき、それはボタンを押した早さが勝ち。一五四名の客席は画面がストップし

「アメリカの伯父さん」より



て「さあ、あなたはどちらでしよう」の進行係り女子の言葉に笑しげに騒いでいた。スリラーやサスペンス映画がこの手法を本式に映画館で用いると面白い(映画遊び)となるだろう。

×

アラン・レネ監督の「アメリカの伯父さん」(一九八〇)を見る。「去年マリエンバートで」「プロビデンス」古くは「二十四時間の情事」などのことし五十九才のフランスの監督。

意識上の時間と空間を映像化するといわれる注目の監督である。アベル・ガンズもフランス人だが、そもそも活動写真からトリック撮影を発明したのもフランス人。映画を(音楽)のように(小説を書くベン)のように自由自在にもてあそぶ。ジャン・コクトーもそのひとり。ところでアラン・レネの「アメリカの伯父さん」は二組の夫婦のその人生を(ときに虫けらのように)(ときにネズミのように)見下ろし見つめながらその男女の神経内部に迫って、それぞれの人間のあがき、成功、失敗、恋、自殺未遂、それらが画面の中でずく描かれてゆきながらその演出手法はあたかも講義を博士から聞くとき(さめきつたきびしさ)で画面から迫ってくる。恋に苦しむ中年の男のシーンが突如ジャン・マレーの時代劇のシーンに一瞬変わる。また仕草のうえで上司と肌が合わぬ男のその苦しみのシーンが突如ジャン・ギャヴァンの映画のシーンに変わる。しんこくな苦しみのさいちゅうにこれはぶち壊しであろうのにその瞬間のジャン・マレーの表情やギャヴァンの表情が、現在スクリーンに登場のそれぞれの主人公の心のうちそっくりで、しかもその男ふたりの胸中のどこかに、二人は苦しみながらもジャン・マレーやギャヴァンに自分の姿を投影しているとききユーモアが生れ、この映画演出の才能はただことでない。「ナポレオン」の三態画面、チェコの「キノオートマツト」、映画は科学とともに進み、感覚表現の創作とともに、ますます新しい世界へはいってゆく。

てつ
がく
さん
ま
てつ
がく
さん
ま

エロース様

細川 董 (哲学者・文とえ)

大金持の男の神がパーティの庭で酔いつぶれている所へ、貧乏の女神がパーティの残り物をごみ箱へひろいに来て添寝して、みごもって出来たのが、エロースという男の子。

これぞ、ギリシア神話でいう、エロース様。

このエロース様こそ、わが憧れの哲学の主人公。

私のいう憧れを、絵にかいたような憧れの神なのだ。

なりふりかまわず、美しいと思えば朝に恋いこがれ、

夕べに死すとも、また翌日は生まれかわって永遠に美しいものへの恋に生きつづけるのがエロース様。

まあいつてみれば、人間の憧れのチャンピオン。

前回お話したように、あのキス、このキス、と多々あるなかで「これがキスだ！ これこそがキスだ！」という風なキスというものはなかなかお会い出来ない。

しかし、それに憧れそれを求めるのが人間ではないでしょうか？

結婚にも、いろいろあるでしょうが、「これが結婚だ！ 」といえるような結婚を私達はしたいもの。

しかし、現実は一瞬のアイデアの滞在しか人間には許されない、アリストテレス先生もおっしゃっているように、一生にさあ、まあ数日、そういう感じになれると私

も思うんですが皆様はいかがかな？

プラトン先生は学問知識よりもっと次元の高いものとして永遠の美を考えた。

知識は経験の積み上げで得られるが、永遠の美は、超能力、インスピレーションによって、こつえんと悟る、と見ている。

そりやそうだと僕も思うんですね。

絵だって、これがほんとうに自分のかいた絵だろうか

と後で疑うほどうまくいくことがある。

こういう場合でないと傑作が出来ない。

何か個人というか、人間というかその能力を越えた宇宙の力が加わって偶々宇宙の調和にかなった小宇宙のようなものがあるところから出来上がった場合に傑作というか永遠の美を定着出来たというか……。

私は芸術というものもこんなもんだと思う。

人生は短かく芸術は永い！

このもとの意味は傑作に到達する道のりの永いことをいったものなのだ。

ああ、それに比較して人の一生の短かさをなげく気持ち

は全く同感だ。

男は女に憧れ、女は女になることに憧れるというのが



細川董・ほそかわただす
京都大学哲学科卒、元大阪樟蔭女子大学教授、FDM大阪「夜的美術散歩」DJ、洋画家としても活躍中。目下、アンティイグ人形に凝っている。

入註V語は哲。字体はすべて高田竹山監修「五体字類」による。



僕の哲学の根本体験だが、プラトン先生はギリシア神話のエロース様を持ち出して、僕のいう憧れをエロースというギリシア語に托した最初の哲学者だと僕は尊敬している。

ルネッサンスと西洋で叫ばれるときは、いつもギリシア精神というか、特にプラトンのエロース精神が復活してくるのが嬉しい。

人間はいくら憧れても憧れ足りないのだ。

大いに、まず肉体に憧れるべきだ。

肉体大いに結構。

もちろん 肉体には限りがある。

涙ぐましい努力も時には必要だ。

次に、西洋のエロース精神のふてぶてしさをちょっと、

回求められたら、こぼむのが婦人のたしなみだったというのです。

スケールが違い、ソツとする話ですなあ。

これぐらいでびっくりするのは早すぎます。

日に一回はほんのオードブルノ おぼこ娘か病人用のほんのおつまみだというではありませんか。そればかりか、

二回は紳士の礼儀。

三回は淑女のつとめ。

四回は妻の権利。

というのですから、あなたもまともな大人なら、ちょっとは考えを改める必要がおりではありませんか？

御紹介しておきま
すから、卒倒なさ
いませんに。
ルネッサンス期
のイタリアはナポ
リの宮廷婦人のセ
ックスの回数につ
いてのお話をひと
つ。

「私、彼が強い強
いというものです
から期待して結婚
したんですが、一
日にたった四回し
かしてくれませ
んの。がっかりだわ
！」
というお話が残っ
ています。

宮廷では、日に
六回が常識ノ、十

●4月ファッションフェア参加／公開講座 アニマルちっくにクラシックに 立亀長三さん<アトリエナクト>

生活の2極分化ということは、かなり前からいわれてきた。お洒落着と普段着。生活必需品と余裕物。ファッションというコロコロ流行で変わる物はそういう2極分化で「長い間使える本物の物」とか「使い捨ての安い物」にどう入っていくのだろうか。

ということを考えさせるパリ通信、ロンドン便りの最近ですが、さてお待ちかねの立亀長三さんのヨーロッパの街角便り、多勢の方が集まりました。(142人もの皆さん、ありがとうございます)やはり行き悩む流行のせいかな。

ということでいつものようにスライドとお話ですが、「クラシックへの回復」がこの秋冬は中心になるでしょうでも勿論ネオ・クラシック。長い間ジーンズやカジュアルな服装に馴れた現

代人に今更、鯨のコレットは無理というものの、部分にロココ(までデコラティブにならなくとも)16~17世紀の華やかなデザイン。

例えばレース、金糸の刺繍。手工芸を使った多分に女性の永遠の憧れの技法。衿はビクトリア女王の頃の小さくたった衿やフリル、色はクリーム色や黄色の淡い色が今の季節のヨーロッパに多いそうです。

そういうネオ・クラシックに対立? しての流行はアニマルプリント。ライオンやひょうが刺繍してあったりプリントしてあったり野性とコンテンポラ

リーシティーの合体です。レース、金糸、アニマルと混ざっているようですが、すべて人間が衣服に持つ憧れの原点、ベーシックへ戻っているのでしょうか。



熱井／立亀さん



満員盛況の公開講座
熱心に聞く受講者たち

●会員ニュース

★春の京都旅行

5月10日(快晴)の日曜日、久しぶりにメンバーの京都旅行。花のあとの嵐山は保津川下りと洒落こみました。旅行団の団長／中島正義さん以下13人、8時半集合で亀岡までバスの旅。(何でも 噂に聞きますところ、バスじゃなくて電車で嵐山までいかれた不思議な方がいらしたとか……)

「もうねえ、ほんとによかったのよ、すごく最高だったのよ」と何かようわからへんけど楽しそうな感想を張さんがおっしゃっていました。

ところで写真は? と聞くと、「フィルムを巻かなかったから写ってへなかったわ」と中島団長。というわけで写真はご紹介できないのであります。

★シンボルマーク募集中

K.F.S.のシンボルになるマークを募集しています。応募資格は会員・非会員を問いません。ファッション的なマークを考えて下さい。

担当/田中謙司さん KENT 361-3644

6月マンスリーサロン

6月18日(木) 7:00~

講師/坂野惇子さん

場所/中小企業会館(センタープラザ16F)

テーマ/ディスプレイにおけるファッション

実際にディスプレイを担当されている方を講師に、ファミリア本店などの印象的なあのセンスあるディスプレイのこつを坂野さんに伺います。

会員/無料 一般の方/1,000円

7月K.F.S.総会

7月17日(金) 7:00~

場所/ヒルハウス(北野町異人館通り・伊太利屋ビル斜め向い)

テーマ①新理事・会長改選 ②予算報告 ③そうして楽しくお食事

年に1度の大総会、久しぶりの会員も(七夕さみらい?)多勢いらっしゃいます。是非是非ご参加を。やはり会員なら投票に一票を。

びっと・いん



カット/橋 昭三

★鮮魚と吟味された肉で
フランス料理を堪能

北野町の会員制にしむら
珈琲店が、一カ月間の工事を
終え、4月19日、2階にフ
ランス料理のシェ・ラ・メ
ールにしむらをオープンし
た。20席だけのこじんまり
した店内は、川瀬オーナー
の心のこもったインテリア
がいかにされ、寛いで落ち着
ける雰囲気がある。



ジャン・メルオーさんも寛いで

ベテランシェフの石川さ
んが毎日中央市場へ材料を
仕入れに行き、鯛やすずき
を食べさせてくれる。前菜
3品と肉と魚、デザート、
珈琲のコース(8000円)
が好評とか。ワインはサー
ビス価格で一本ずつ抜いた
栓を壁に飾ってくれる。ラ

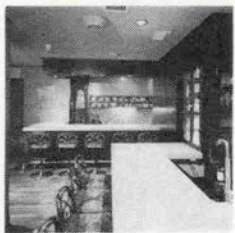
ンチタイムは2000円の
コースがおすすです。

■中央区山本通2-11-20 電話24
2-2467 11:30AM-2PM
5PM-9PM 無休

★ワシントンホテルB1に
サンタズキチンが誕生

エム・エム・ジョインの
ミコ(石川みづ子)が神
戸ワシントンホテルの地階
に西洋居酒屋「サンタズキ
チン」を3月15日開店。

白と黒を基調にしたシッ
クなデザインは藤谷明正さ
んによるもので、籐のカウ
ンター椅子も洒落ている。



シックなムードの店内

欧風割烹料理の前菜を料理
長の高橋さんが腕をふるっ
て和食器と箸で食べさせて
くれるのが嬉しい。ホーム
バーとしても楽しんでもら
おうと、25名限りでマイグ
ラスキープをしてくれる細

かな心づかい。小さな店だ
が美人ママを中心に美食家
のふれあいの場として賑わ
っている。

メニュー/ホタテ貝フッシュンマ
リネ900円、シーフードグラタン
1100円、牛肉赤ワインソース煮
1800円

中央区下山手通2-11-5 神戸ワシ
ントンホテル 電話332-3923

★エグゼクティブのための
名門クラブが神戸に誕生

5月30日、阪急三宮駅西
口山手に会員制クラブ「エ
スカイヤクラブ」がオーブ
ンした。16年前に北新地店
が誕生して以来、「日本の
名門クラブ」として歩んで
来たエスカイヤが、待望の
神戸に上陸したわけだ。



豪華で気品のあるムード

会員になれば、オンライ
ンボトルシステム、エスカ
イヤネットワーク、廉価シ
ステム、大和実業グループ
全店利用システムの4つの
特典が利用できる。価値ある
クラブライフが楽しめる。

中央区北長狭通2-12-10 西村ビル
5・6F 電話332-1731 平
日5PM-1AM 日曜祝日3PM
-10PM

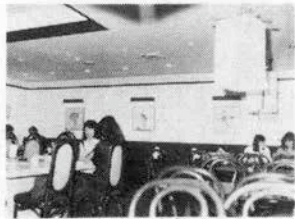
●神戸うまいもん
とドリンキング

ウイーン菓子

モーツァルト三宮

中央区磯上通八丁目 国際会館南
カサベラビル1F 電話3361
6

手づくりのウイーン菓
子が好評のモーツァルト
神戸に姉妹店が5月1日
誕生した。こげ茶色とホ
ワイトを基調にした明る
く清潔な店内に神戸店同
様灘本唯人さんの絵がよ
く調和している。中央に
大理石のテーブルが置か
れて、これは一人で思索
にふけるのにぴったり。



白く明るい店内に人気

おなじみのウイーン菓
子に加えて、工夫をこら
したパラチセン(ウイ
ーン風クレープ)、シェ
フのおすすめ品などメニ
ューも豊富。新しいケー
キサロンの誕生だ。

10AM-10PM 無休
メニュー/パラチセン(フル
ーツ、ショコラ、マロン、ヨ
ーグルト)550円

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより



★元町3番街に春の訪れ
ルナケードⅢが完成



見上げれば、空

春の訪れとともに元町3番街に待望のルナケードⅢが完成。4月25日には、バルローレ前で竣工を祝つての神事とセレモニーが盛大に繰り広げられた。昨年12月に一番街で誕生したのと同じクリーム色のファッショニステ豊かなドーム型。晴れた日にはアーケードを開いて青空を眺める楽しい趣向も味わえる。

当日は、あいにくの曇空だったが元町アイドルレディや楽隊が元氣いっぱい商店街を行進、伝統とハイカラの街「もとまち」に新しい彩りが加わって各店とも更に意欲を燃やしている。

ポートピアⅧを訪れた人たちにもエキゾチックな元町は人気のコースだ。

★モナコ大公ご夫妻
パールに感激

4月にポートピアⅧ御見学のため来神されたモナコのレーニエ三世大公、グレース王妃とステファニー王女は7日午後、灘区の田崎真珠六甲台工場を訪問、真珠養殖作業やネックレス製造過程などを見学された。買ひ物はこの日の予定に入っていないが、アコヤ貝への真珠の核入れ作業やネックレス作りなどに興味深げのステファニー王女が同工場玄関脇に売り場があるのを見て、大公の腕を引っ張るようにして中へ。



熱心にご見学

小粒の淡水産真珠のネックレスがお目当てだったらしい、希望の品を見つけ、大喜びの笑顔を見られた。

★サン・ミヨシヤが改装



モダンと暖かさの調和

大丸前のサン・ミヨシヤが2倍の広さで改装オープン、以前からの靴やアクセサリーなど洋品雑貨に加えて、靴や洋服も扱うトータルファッションのブティックになった。インテリアもメタルと白木を使ってモダン・暖かさが調和。

「神戸は絶対ヨーロッパ指向。フランスとイタリアのファッションを品質本位で集めた」と、みよしの流社長。「和服も洋服もファッションだから同じや」とはりきっている。

★ボクがデザインした
ケーキができたヨ

子供の日の企画としてドリンクの「子供のデザインケーキ」の入選作8点が4月29日～5月5日の間、センター街三宮本店に飾られていた。阪神間から応募総数121点。3才から11才の子供たちの絵を実際にスポンジ

●ショップトビックス

★ジューン・ブライドに贈る「花と真珠のブライダルフェア」が、6月7日(日)に神戸オリエンタルホテルで開かれます。ショーのプログラムは、ブローリング結婚式の仕掛人が語る「葉晴しき一日」に始まり、partⅠ華と書の出会、partⅡ花と旅の出会い、partⅢ花と真珠の出会い、partⅣ花と愛の誓いとなっています。花嫁衣裳はすべて中川衣装店。第1回PM1・30、第2回PM3・30、会員登録2000円

★つるや衣装店では、6月28日(日)に神戸ポートピアホテルB F階楽の間で「大展示会」を催します。ぜひお立ち寄り。

★ニューポートホテルでは4月より直営のバーカーを営業しています。パースディケイキやクリスマスケーキはもちろん、茶話会や会社のお供として、又、贈答用にご利用下さいませ。

★宝飾のミキモトでは、「初夏新作コレクション展示会」を6月28、29日に大阪ロイヤルホテルにて、30日、7月1日に大阪梅田店(新阪急ビル1F)で開催します。

★モロゾフでは、ポートピアⅧを記念して、お持ち帰りのいただける「白いチーズケーキ」を発売中。

ミニのレアチーズケーキをフレッシュアップ。パイナップル、レモン、オレンジ、ストロベリー、4種類でそれぞれにミニサイズのケーキソースを付けました(¥300)また、ポートピアⅧのシンボルマークが入った素敵なペンダント……実はメダル型ミルキークォンリート、ポートピアⅧメモリアルプレート(¥300)も見学記念にお子様へのお土産にどうぞ。

★呉服のちんがら屋では6月4日～9日まで、センター街店1・2Fで「婚礼衣裳展」を開きます。ぜひご覧下さいませ。

New Face



ファミリア北野坂ハウス



船橋雅人店長



ティールーム



リトル・ショップ

無休

■中央区北野町2丁目125番2
22133535 11AM~6PM

キも一味違った味が好評だ
庭の一角では小鳥の声と
緑に囲まれたギフト商品中
心のリトルショップも営業
され、神戸らしさを大切に
したファミリアらしい店づ
くりで観光客も続々と入っ
ている。ホームメイドケー
キも一味違った味が好評だ

くも話題になっている。
庭の一角では小鳥の声と
緑に囲まれたギフト商品中
心のリトルショップも営業
され、神戸らしさを大切に
したファミリアらしい店づ
くりで観光客も続々と入っ
ている。ホームメイドケー
キも一味違った味が好評だ

★当館のおすすめは
シフォンケーキ!

異人館の中心地、北野坂
に4月29日ファミリア北野
坂ハウスがオープンした。
樹木に囲まれた庭園に、ア
リーアメリカン風の館が
新築され、1階には30席の
ティールームが誕生。カラ
ーコーディネートが美しく
ゆっくり寛げる雰囲気及早
くも話題になっている。

のが楽しみなんですよ」と
話す、ソフトな感じがやっ
ぱり素敵な石坂さんは仕事
の合間を縫ってポートピ
ア'81も見学された。



石坂浩二さん(右)と安達昭三さん
「神
戸に
来た
ら骨
董品
屋さ
んを
覗く

ビュ、無事収録完了した。

新製品コーナー



ポートピアだっちゃん

おもちゃのカメヤがポートピア81
を記念して作った、オリジナルだ
っちゃん。ピンクのリボンを頭
につけて赤いハッピーを着ている女
の子と黄色いハッピーの男の子の2
種類。各630円。昔なつかしいだっ
ちゃんをポートピアの思い出にお
みやげにいかがですか。



★ミキモトの新社長をご紹介します。
杉浦 重敏さん 63才

大正7年生まれ、昭和15年株式会
社三菱銀行に入社、46年退職後、
株式会社ミキモトに入社、専務取
締役に就任、本間利章氏の急逝に
伴い、56年4月、後任として取締
役社長に就任。新風に期待します

ポケット ジャーナル



★ポルトピア'81に咲いた花
ファッションフェア'81

ファッション都市をめざす神戸の行政・民間が手を携えて華やかに繰り広げたコウベ・ファッションフェア'81。フィナーレは5月23日のファッションショー'81で、ポルトピア見物の全国のお客さんを相手に国際広場で華やかな舞台が演じられた。演出はおなじみの木村茂さん。真珠業界、ファッションメーカー各社による神戸ファッションの披露に遠来の客もたうっとり



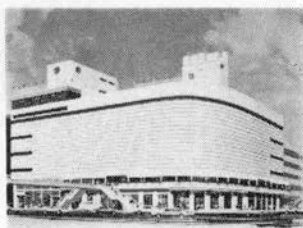
花開け神戸ファッション

恒例のデザインコンテストは、ハイファッションの部に中井裕雄さんが大賞、平野正子、入江祐子さんが金賞、マイファッションの

部では小久保幸子さんらが金賞を見事獲得した。

★化粧直しをしてそこうがイメージを一新

国鉄三ノ宮駅前のそこう神戸店が今年2月中旬から総工費、約10億円をかけて、外壁改装工事に着手していたが、ようやくこの6月末に完成することになった。



アルミ化粧板で一新したそこう

昭和8年に進出以来、何度も増築工事が繰り返されてきたが、イメージを統一させスマートさを演出と化粧直しに踏み切った。全面を明るいベージュのアルミ化粧板で覆い、清潔

な雰囲気。ポルトピア'81で訪れる人々にとっても、神戸の表玄関としてふさわしい外観だ。完成記念のイベントも数々企画されている★おめでとう 大森さん

「ヒポクラテスたち」で文化庁の昭和55年度優秀映画製作奨励金交付作品に選ばれ1千万円を手にした大森一樹さん。昨年12月13日に長女・美季ちゃんも誕生して幸運続きの彼が4月25日北野クラブで聖子夫人とともに披露宴を開いた。



やったぜ！ 大森さん

ロケ中の千葉から忙事を縫って飛んできた鈴木清順監督をはじめ、荒戸源次郎シネマ・プラセット社長、高林陽一監督、大林宣彦監督夫妻、佐々木史朗ATG社長、中村美美シネマ・ハウト社長、佐々木啓プロデューサー、女優の大楠道代さん、京都府立医大の恩師学友、元無国籍のメンバーたちが集まって二人を暖かく祝福した。

誕生日 ありがとう 運動



第九回市民の福祉講座ご案内

本運動が、毎年開いている福祉講座を本年は、次のような要領で開催いたします。

テーマ 障害者の完全参加と平等とは

日時 八月二日(日)

九・三〇一六・三〇

場所 神戸勤労会館(三宮の新開会館のすぐ東)

定員 五〇〇名

参加料 千円・中・高校生五〇〇円

第一部 ディスカッション 映画「小さな輪・大きな輪」をめぐって

○インタビュー 映画撮映者の松本一郎氏 長田 健氏

○映画各場面の部分上映とディスカッション

A ちえおくれの子を持つ家庭 B ちえおくれの子の統合保育と交流学習

C ちえおくれの人の労働

○まとめ 伊藤隆二神大教授

第二部

講演 「草の根からの福祉を」

一番ヶ瀬康子日本女子大教授

第三部 障害児接育、福祉関係図書展示と福祉に役立つ切手展

参加手続き できょうな用紙に、

①名前②住所③電話④職業を記入して⑤参加料を添えて申込んで下さい。

申込みと問合わせ 当運動本部へ

〒611 神戸市中央区御幸通ハ一一六

神戸国際会館一階の郵便局の隣

電話 二五一八六一 内線三二六

披露宴のあと、北野スキヤンダルで和気あいあいの二次会が催され歓談が続いた。なお現在、大森さんは神戸・芦屋を舞台にした次作のシナリオを推敲中で今度もATGで撮る予定。

★炎のこころを清姫に
加藤きよ子リサイタルⅡ



たる子
狂をき
恋に姫
清加藤

今岡頤子舞踊団の加藤きよ子さんが第2回リサイタルを神戸文化ホール(中)で7月5日(日)午後6時より今回は摂津国風土記逸文より「夢野」(名生昭雄原作)と「清姫」(作詩田辺聖子)と「LET'S GO SHOW」(天城月江構成・振付)を加藤きよ子が踊る三本立て。演出は岡田美代。

久々にニューヨーク留学からもどった野坂公夫を相手に、加藤きよ子が、バラエティに富んだプログラムで、その燃える個性をどこまで発揮するか、期待されている。

★笑トビア'81漫展を
お問合せ電話予約 078(39)1518(32) 2788 神戸文化ホールプレイガイドで発売中。

笑トビア'81漫展を
さんちか広場で大公開
ポートピア'81に対抗して
笑トビア'81を関西の漫

画家たちがさんちか広場で「笑トビア'81漫展」を開催。日本漫画協会関西支部の主催で5月2日から14日まで、本のできるまでを図解したり劇画と漫画のちがいなどをユーモラスに説明した漫画解説コーナー、丘あつし、北星晃平、田中晋一らの原画コーナーなどに

人気が集まった。



高橋孟さん

なかでも「海軍めしたき物語」でおなじみの高橋孟さんが朝日テレビ「土曜の朝」で描いたタレント夫婦の似顔絵漫画や50年後の顔シリーズが傑作。孟さんも連日会場につめかけ、似顔絵書にサインにと大ハッスルだった。

★JAY・丸、豪雨の中のサヨナラ・コンサート

黄金週間三連休初日の5月3日、異色のシンガーソングライター、JAY・丸さんのサヨナラコンサートが、元町のヤマハホールで開かれた。6月に、アメリカCBSのジョーディー・カーソン・ショー出演が本決

まりとなり、これを機に、活動拠点をLAに移すことになったもの。



JAY・丸、熱唱

当日午後からの豪雨にもかかわらず、客席はマズマズの入り。多彩なゲスト出演や、若宮てい子さんの司会による丸さんの「形見わけ」オークションなどもあり、丸さんのファンにとつては忘れ難いフェアウエルコンサートになった。

★ココアとケーキを食べながらの小さな画廊

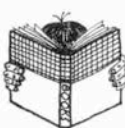
本来は洋服屋だが趣味の美術が高じて店を画廊兼デイルームに改装した「スペースアデツッあしやるねさんす」が4月2日開店、松谷武判展でオーブンを飾った。画廊主(?)真壁義昌さんはやはり洋服屋さんのお父さんの代からの美術愛好家で日頃から阪神間の美術家とも親交のあった人。



関西在住画家が集う

「画廊というより作家たちがわいわいと集まるスペースにしたかった」という

図書ガイド



神戸・上野浅草・ニューヨーク 枝川公一



都市に限りない興味と愛着をもつフレイターの著者が自らの足で描いたルポルタージュ。昨年9月から今年の3月まで夕刊フジに「ルポルタージュ・人間と都市PART II」として連載されたもののだが、不思議の国ニューヨーク、上野浅草・過去からの旅、ポートピアへの道、の3話で構成。とりわけポートアイランド埋め立てという大事業を成功させたまでの原口忠次郎ら群像の活写には興味がそそられる。

(1200円・サンケイ出版)

中国・シルクロード

日中友好の旅

山口光朝



日中友好国民協議会の第5次訪中団の一員として77年夏に北京・上海・新疆ウイグル自治区を3週間にわたって訪れた著者の印象記。四人組の追放から華体制へ移った時期の中国社会、クリスチャンである山口さんが見た中国の宗教事情などが美しい写真で紹介。(神戸女学院大学シルクロード研究会)

その「画廊」の一階は松谷夫人でやはり版画家のヴァン・ホーテンさんが設計、正統派ココアやココアケーキがある。心豊かなスペースができたわけだ。

★青い目が描いた異人館の絵ハガキが好評



異人館の館

神戸の街を愛する米人画家、ジャック・マルーンさんが水彩で描いた異人館風

花時計



有馬讃歌

六甲山の北に有馬の温泉郷がある。神戸にとつてこの有馬の存在が大変貴重なものであることは誰れしも認めている。温泉郷としてあり勝ちな騒騒しいところがないのがなにより嬉しい。伝統の重みを感じさせ

景の数々。これがこの程まとめられ、あおめブックスから「青い目が描いた異人館」の絵ハガキとして発行された。水彩画独特の淡い色彩で、シユエケ邸、うるこの家など代表的な異人館が取り上げられ、6枚一セットで300円。現在、書店その他で好評発売中。

★梅博士の健康法を教えてください

最近、何となく体がだるかったり調子よくない人に吉報。自然食品のナチュラルハウスが梅博士・松本紘斉さんを招いて梅丹祭を6

るしつとりとした街のたたずまいは素晴らしい。それでいて、健康的な軽やかな雰囲気をおわせもっている。これこそ年月で磨かれた文化なのだと思ふ。

全国に温泉地は多い。なかなか洒落た温泉地や雄大なスケールの温泉地も数多い。だが有馬にはかなわないと思う。

なぜ、有馬がそんなによいと推賞するのかもしれないことになる。

第一にサービスの質が高いことである。これは

月5日〜7日まで開催。梅は古来からその薬効を貴ばれてきたが、農薬や有害添加物など食品公害の危険が叫ばれる今日、一層見直されている。梅ぼし健康法の



松本紘斉さん

ン会、青梅の即売、梅ぼし・梅酒のつくり方講習を中心にサントブキ3階大会議場で行なわれる。参加希望の方にはナチュラルハウスで整理券(無料)を発行中。

ナチュラルハウス／元町1番街
392-3661

かりは一朝にして成らないことだ。料理の質、従業員の行届いた心づかいや遊びに対する思いやりなど手馴れたものだ。その他に温泉の質とか建物の質などいろいろな面で優れており、総合得点で他の温泉地を引き離している。

それに、何んといっても地の利に恵まれていることだ。まさに、阪神の奥座敷だ。

神戸はもつと有馬の良さを活用すべきである。

△Y△

KOBE POST

★本誌「アルファベット・アベニュー」でおなじみの電通マンのシン・ガラングライター・新井満さんが、4月1日付で東京へ転校。〒104東京都中央区築地1-7-11電通恒産第2ビル5F(54) 7031
★11電通開発事業局ビデオ・ディスク部。自宅〒154東京都世田谷区駒沢1-1-30電通八星苑独立1号
★兵庫高校の名生昭雄先生が、兵庫県立鈴蘭台西高等学校へ転任されました。〒651-11北山田町小部字崎ヶ谷(593) 24224
★自宅〒651-11北沢鈴蘭台北町1-3ノ28(591) 0051
★作家の奥野忠昭さんが、大阪教育大学に勤務されました。自宅〒582柏原市法善寺3ノ334ノ2
★神戸新聞会館の松岡利晃さんが脱サラ。事業・広告企画の営業にやる株式会社「サン・イベント」を設立。新住所は〒651中央区八幡通1-1三宮ビジネスマンション3F 231-0350
★真帆しづきさんが株式会社真帆企画を発足。東京都港区西麻布2ノ24ノ3西麻布ガーデン306(53)(499) 4127・(368) 1169 豊田勝敏・井上忍
★二紀会委員の大重徹画伯が転居。新住所は〒655宝塚市中山五台6ノ1ノ24ノ101(507) 9797 (88) 6075
★東京二紀会所属のメゾプラノ歌手の井上和代さんが、4月28日井上賢恵さんと生田神社で挙式。ゴールインされました。お住いは今まで通りに大電区内です。
★西武社代表の松村信人さんと西井美知子さんが3月22日大阪ロイヤルホテルにて挙式されました。新居は〒538大阪市旭区太子橋3ノ2流川パークハウス5棟10111号(54) 06(94) 0777
★5月15日に一周年を迎えた「ばっばこーな」(専売公社シヨールム)に新谷英夫さんの壁画「瑞雲」が完成。

どなたの口にもぴったりの

スパゲティーだけが

とれます。

だまっつてすわれば

おのぞみ通り!!

東京・渋谷

スパゲティ専門店



壁の穴

<三宮店>

中央区三宮町1-5 サンロイヤル神戸10F (さんプラザ)

TEL 078-332-4551

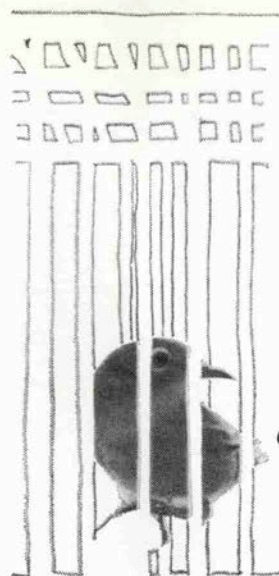
営業時間11AM~9PM 第1・3月曜休

□ 才5回神戸女流文学賞受賞作品(原題「痕跡」)

流れる素描

久保田 匡子

絵/田中一好



△ 6 ▽

登の理解しがたい憂鬱、不機嫌というものは、他からどうしようもない、そうして登自身にも統御出来ぬ彼の内部の暗い病巣からの噴気なのではあるまいか。

「暗いのに電氣をつけたらどうなんだ」

いつの間に下りて来たのか、背後にヌーボーと立って

登は陰気に言った。範子は思わず飛び上がった。彼女は夫に訳のわからぬ恐怖を抱いたうしろめたさを隠すために、水道の蛇口をいっぱいにあけて、それまで何とはなしに水をかけていた大根をごしごしと力を込めて洗い始めた。

「暗いじゃないか」

どこか弱々しく登はふたたび言った。話すきっかけを待っているのだとすぐさま察しはしたが、さっきの荒々しい扉の音が耳について離れない。すると、急に登の気分には振り回されておどおどしたり、ほっとしたりするのがいかに馬鹿々々しく思われてきた。恐怖から解放された反動もあって、

「つけたらいいでしょ、気がつけば——」

普通の夫婦はこれくらいのお礼はしているものだと、思い切ってぞんざいに返してみる。しかし、背後はしんとしたものの動く気配もない。範子には振り向かずとも登の怒りを抑えかねて赤黒くゆがんだ顔がありありと見えるのである。ものを投げつけるか、ひと思いに殴りかけるかしてくるならばどれほどすつきりとするかどうか。気心の知れぬ人だと心の中で呟いたが、その時、ふと、車の中からこちらを窺っていたもう一人の得体の知らない男のことが、彼女の脳裏をかすめ過ぎた。

登はそのまま足音も荒々しく二階に上がってしまった、たかが明かりで、まともや面倒な事態を招いてしまったことを範子は悔やんだ。

姉が笑顔ではいつてきた。

「ハイ、晋ちゃん召しあがれ。今日はおじいちゃんの命日なもんで、朝から準備して造ったんよ。おいしいわよ」大皿に盛った五目ずしには、出前のようにサラシラッブが貼ってあって、キラキラと光る透明のその被膜の下に、淡黄色の卵の糸切りや、漆黒のもみのりが落葉のように嵩高く埋まっている。

「なんだ。また五目ずしか」

と、次男が生意氣そうに馬鹿にした様子で言った。

「あら、まあ、またとはご挨拶ね。晋ちゃんの好物だと思っ作ったのに……」

「それは兄貴さんだよ」

「そう？ そうだったわね。おばちゃんうっかりしていた。でも、まあ我慢して食べてちょうだい。お兄ちゃん

の分もね」

次男の一面正直な言い草が気に障ったのか、それとも却って嬉しいのかは、大きな声ではしゃいで言う姉の様子からは読みとれない。これっ、と軽く子供をたしなめて、ご馳走さま、と範子はうやうやしく皿を受け取ってテーブルの真中に置いた。

「姉さんもこれからここで一緒に晩ごはん食べない？」

わたしたちも淋しくなっていたんでちょうどいいじゃない」

長男は昨年九州の大学に入学していた。その年はまた母が死んだ年で、その前年には父が死んでいた。親の命日も忘れていた引け目と、姉の心づくしの料理を謝す気持ちからであったが、姉と登を近づけるもくろみもあった。姉一人の食事の味気なさを思いやらぬでもなかったのだが、登に気を兼ねて今までやり過ごしてきたのだった。

言ってしまったから、誰よりも最もそれを望んでいるのは自分ではないかと範子は思った。

「いいのよ。わたしはわたしの好きなようにして暮らしているんだから。それにあなたらと付き合ってたからお腹が待てないもの……」

チラツと登に目をやった姉は、とんでもないという風に首を振った。

「そう仰られると無理に誘えませぬね。姉さんの所は晩ごはんが早いですから……」

登がもつともらしい顔つきで口を挟んだ。

姉は曖昧な微笑を浮かべると、そそくさと出て行ってしまった。

すかさず乗じた登を憎いと範子は思った。二人して誘っても姉は遠慮して断るだろう。登の気難しさを母以上に鋭く受けとめている姉には迷惑でもあらう。いや、一人暮らしの姉の本心を察すれば、見えすいた誘いでも二度三度と辞退してから、「それでは……」ということになるかも知れなかった。それはそれで悪いことではない

はずだった。賑やかな長男がいなくなつて、この家も淋しくなつたと彼女は心底から思った。

範子はサララップをやや邪慳に剥ぎ取つて小皿におすしを盛り分けた。鮮やかな配色で飾られたおすしの山は、努めて無難作に動かししたホークによつて無残に切り崩され、あらわな土塊のように小皿の上にひしげてしまつていた。

「俺はいらんよ」

箸もつけないで登は断つた。

「どうして？ まだ食べられるでしょう」

「うちでたくさんだよ……クレゾールの臭いがする」

「本当？」

範子は嗅いでみたが、甘酸っぱいおすしの臭いが強く匂うだけである。

「気のせいよ。食べられるわ」

彼女は自分が丹精こめて作つたようになつかりしていた。登がこのように言い出せば、金輪際後に退かないのがわかつていた。

「おいしいわ」

範子はおすしを頬張つて言つた。

「そうだろう。ふる里の味だからな」

と嫌味を言う。

「どうとでも言つたらしいわ。わたしみたいに三度三度食事を作らなければならない者には、頂きものはおいしいのよ」

「あんたはすしに目がないものな。まあ、たつぷりあるから急がずにやつてくれ給えよな」

「僕もいらない」

まずそうに次男が箸を置いた。

「クレゾールが臭うよ」

子供の不満げな顔を見たとなん、範子はカッとなった。

「あんたまで勝手なことを言つて——おばちゃんが一生懸命に作ってくれたのよ。人の親切を素直に取れないなんて駄目よ」

「でも、臭うんだから仕方ないじゃないか」

高校生の次男は、その父よりも冷静な目をして範子を見返した。いつもの彼女ならその目で我に返るところである。

「臭う、臭うって、そんなに詮索することないでしょ。

あんたは食べるものがなかった戦争中や、戦後のつらさを知らないから……」

「ナンセンス。知るはずがないじゃないか。それとこれとは問題が違うよ」

「だから教えてあげているんです。おばちゃんもね、戦争でひどい目にあったんです。あの人は許嫁が戦死して……」

その公報が戦争が終わってから何年もたつて届いて…… 待つていたから年をとつたのよ。好きで一人でいるんじゃないのよ」

突然、姉を毛嫌いする登に逆らう気持ちだが、奔馬のように範子の内部を狂おしく駆けめぐつた。

「おばちゃんが五目ずししか作らないというのも作れないのではないのよ。戦争のあと永い間、五目ずしを食べるのがおばちゃんや、お母さんの夢だった。クレゾールが少しぐらい臭つたつて、おばちゃんのことを考えたら食べるべきよ」

範子は熱に浮かされたようになっていた。涙が薄く滲み出ている。日頃、家庭をかまけなかつた父が、白米を手に入れるために縁故を頼つて走り回つていた姿が、脈絡もなく目の前に浮かんできた。窮乏生活だったけれど家族が心を合わせた楽しい時代であつたと思う。

彼女がまくし立てている間に、登の顔色が少しづつ蒼くなつていった。酔うほどに蒼くなる人のような様子でじつと前方を凝視している。その表情を崩さずに、

「今さら、戦争中のことなど持ち出して何になる」と、低くせせら笑つて言つた。

「そう言うあなたはどうかの」

「……」

「コンゴみたいな所でも言わずにおれない癖して……」

弘子の所へ行っているのは問わないでおこうと範子は決心していたのだった。だが口に出してしまった。軽率だったとは思わなかった。彼女は夫の顔色ばかりを窺っている関係に飽き飽きしていた。これで悪くなる間柄ならいずれ止められないだろう。

範子はすっかり興奮から醒めてしまっていた。反対に登は憤怒に我を忘れていた。

彼女は子供にめくばせをした。次男は待てよ、といった態度でごはんにお茶を注いで掻き込むと、むすつとして席を立てて行った。そのわざとらしい悠揚とした後姿を、範子は息をこらして見送っていた。

「俺がどこで何をしようと、いちいちあなたに干渉されることはない」

呻くように登は言った。範子は、あんな、という言い方に冷ややかな拒絶を感じた。

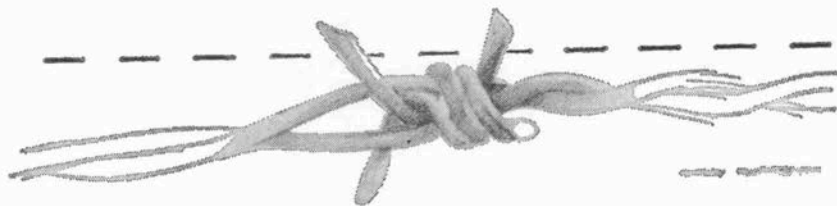
「そうじゃないのよ。あなたに戦争の傷跡があるなら、姉にもあるということと言っているのよ」

「笑わずな、ぬくぬくと育ったお前たちに戦争の本当のつらさや、苦しさはわかってたまるものか」

「だったら弘子さんにも言わなきゃいいでしょう」

険しさや、神経的な怒りを浮かべることがあっても、登の顔はかつて冷酷であつたためしはなかった。気が小さく、そして弱いために内部の鬱憤を抑えきれなくて外に噴射するのであって、どれほど怒っても苛立っても、登のその人間的な弱点は範子に親しさを失わせなかった。

今、登の目を範子は冷たいと思った。これまで見せた



ことのない突き離れた冷淡な登の視線が、自分の左頬に当てられているのを捕えて彼女は思わず顔を伏せた。一瞬、灼けつくような痛みが頬を走った。

登の引く椅子が床をひときわ高く軋めさせた。彼はしばらく頭を垂れて考え込んでいたが、立ち上がった時と反対に、足音を殺すようにして奥に去ってしまった。その忍びやかな動作が巻き起こす空気の微かな波動に彼女は注意を奪われていた。目にも見えず、皮膚にも触れぬ微細な動きは、範子に鋭い刃の切っ先を突きつけられたような緊迫感を強めた。

すぐに登は出て来た。通勤用の背広を着込んでいる。

「今夜は帰らないからな」

乾いた声で投げすてるように言いながら、はや靴に足を入れていく。

登が気安く泊まれる家はどこにもないのを知っている範子は止めようとした。

だが凍りついたように舌は動かなかった。こんな場合、泣き叫んだり、臓腑をしぼり出すそれが登を引き止めずにはおけぬ、決定的な言葉を持たないことを彼女は悟った。

悪夢としか思えないあの雨の夜の出来事がまたもや起ころうとしていた。風のように身軽く家を出ようとする登の姿は、既定の行動のごとく呆気なく自然だった。だが、彼女には逃げるように自分から去って行こうとしている登の屈んだ背中が、ひどく孤独なものに感じられた。登もまたこうした行為でしか叫びを表わすことが出来ないのだからと、金縛りになった頭の一隅で考えていた。

何故、引き止めなかったのだらう……と範子は何度も考えた。引き止められないということはないはずだった。どのような場合であれ、出て行こうとする者を留まらせないのは、止めない側の責任ではなからうか。彼女は手を拱いた形で登を行かせた自分の心に、どこかでそれを望んでいるものがあるのではないか、と思った。

範子は左頬に当てられた登の、嫌悪とまがう冷たい視線を忘れることが出来なかった。二人の間には火傷の跡は既に意味を持たなかった。二人で支え持った二十年余の歳月が、それを繊弱な感傷、もしくは悲嘆とみなすことに変えていた。だがそのことにこそ登の憎しみはあったのではないか？ 意味を失なうた火傷の跡は、登にはただ目障りな傷跡に過ぎなくなっていたのではないか。頬に引きつりを残した鬱陶しい女としてのみ映っていたのではなからうか。座興としか範子に受け取れない彼の軍隊時代の思い出と同じように……

空虚な痕跡を四六時中、目の前にしての登の苛立ちもまた、空疎な影を四辺に投げかけていた。

そうした考えを追って見たものの、引き金となった事柄に比べて登の取った行動は重過ぎると範子は思わざるを得ない。彼を引き止める言葉を探し当てられなかったように彼の行為は彼女の理解の外にあった。考えれば考えるほど登という人間がわからなかった。

もし、登がなりたくない人間としての現在の己が姿に訣別をつけようとしたのなら、それは自分との間でなされてはならないと思う。戦災死したと一括して彼が言う身内——彼の父母、兄——を、かつて懐かしんだことは一度もなかった。範子は彼の不機嫌の、更に奥暗い断層を見せつけられるのを予感して、彼らに触れることはしなかった。あきらかに捕えられることは出来ないが、範子には知り合えなかった登の身内と登との関わり、そして登自身の問題として解決されなければならないのではないか。

彼は家を出ることで、鮮烈な線描を空の画布に写すこ

とが出来たであらうか。範子は少年の北山和男の渴望を理解したごとくに、登を理解しようとした。だがすぐさまその思いははかなく消えてしまった。範子の網膜には、たえずやみくもな衝動に突き動かされている登の像が、意味不明な輪郭をもって、ただくろろと浮かびあがればかりであった。

自分は何故このような場所で、息をひそめて暮してなければならないかったのだらうか——と、範子は呆然として、古び、煙んだ家の中を見渡した。彼女にわかったことは、二人の子供がまだ幼ければ、自分は決して登を行かせなかっただらう、ということだけだった。

ラジオ体操のリズムに合わせて、姉が束ねて使う二本のハタキは、悲鳴のようにガラス戸を震動させた。二階に寝ている次男が、かなり前から目を醒ましているのに範子は気づいていない。毎朝、この傍若無人なけたたましい音に起こされて、睡眠不足に苦しむのは彼女だけだった。登も次男も明け方の眠りは深く、滅多な物音でなければ目醒めない。その父の感情的な性格に却って鍛えられるのか、次男は理性的な若者に育っていた。しかし、昨夜のことは彼にとっても相当な打撃であるに違いない。この次男のためにも登を引き戻さねばならないと醒めた朝の冷静な頭で彼女は考えていた。意地や、憤りはなかった。あるのは諦めと不安、もしくは危惧——登は無事で一夜を過ごしただらうか、という危惧だった。

(続く)

■執筆後記

文／久保田屋子（くぼた・きょうこ）

昭和三年、大阪市に生まれる。大阪府女子専門学校国文科卒業。同人誌「まひる」「海馬」にて作品を発表しつづける。現在は「原声」（堺市）同人「風群」に発表した『暗い陸線』で第六回太宰賞候補となる。主婦。大阪市在住。

絵／田中一好（たなか・かずよし）

昭和二十一年、神戸市に生まれる。京都美大卒業。市立高羽小学校に勤務するかたわら新鮮な着想と淡い詩情の世界を描き続ける。53年に第一回エンバ美術コンクール佳作受賞。東灘区在住。